

科目名称	疾病の成り立ちと回復の促進 I (内部調節・運動機能障害)	学年学期	単位数	時間数
		第1学年 後期	1	30時間のうち 10時間
担当教員	河野 真介 鎌田 一億	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 医師 ) <input type="checkbox"/> 無	

#### 【1】 授業概要

疾病により心身機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各病状の特徴や治療法について理解し、看護実践における観察や治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠とする。

疾病の成り立ちと回復の促進 I では脳および神経機能、運動機能、内分泌・代謝機能の障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

#### 【2】 学習目標

1. 代表的な骨や神経の名前と局在を説明できる。
2. 代表的な運動疾患の病態、治療、看護について説明できる。
3. RICE 処置、ギプス固定の方法や松葉杖に使用方法について説明できる。

#### 【3】 第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

#### 【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	運動器の解剖、機能(骨粗鬆症を含む)	講義
2	運動器疾患の応急処置	学内実習
3	代表的な運動器疾患①(外傷、スポーツ障害等)	講義
4	運動器疾患の看護	学内実習
5	代表的な運動器疾患②(変性疾患、腫瘍等)	講義
	試験・まとめ	

#### 【5】 評価方法

授業態度、レポート、筆記試験で総合的に評価する。

#### 【6】 教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ 医学書院 2020年 15版

#### 【7】 参考書

配布プリント

#### 【8】 受講生へのメッセージ

- ① 運動器の解剖、機能について理解する。
- ② 代表的な運動器疾患の病態、治療、看護について理解する。
- ③ 運動器疾患の応急処置について実践する。

科目名称	疾病の成り立ちと回復の促進 I (内分泌・代謝機能障害)	学年学期	単位数	時間数
		第1学年 後期	1	30時間のうち 8時間
担当教員	増田 紘子	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 医師 ) <input type="checkbox"/> 無	

#### 【1】 授業概要

疾病により心身機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各病状の特徴や治療法について理解し、看護実践における観察や治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠とする。

疾病の成り立ちと回復の促進 I では脳および神経機能、運動機能、内分泌・代謝機能の障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

#### 【2】 学習目標

1. 内分泌・代謝機能障害の成り立ちと症状、疾患、治療について理解する。

#### 【3】 第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

#### 【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	内分泌総論、視床下部、下垂体の疾患	講義
2	甲状腺、副甲状腺、副腎の疾患	講義
3	糖尿病	講義
4	脂質異常症、肥満、痛風	講義
	試験・まとめ	

#### 【5】 評価方法

1. 筆記試験と授業への取り組みを含めた総合評価を行う。

#### 【6】 教科書

系統看護学講座 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 2020年 第15版

#### 【7】 参考書

・なし

#### 【8】 受講生へのメッセージ

内分泌・代謝機能障害の成り立ちと症状、疾患、治療について理解し、看護実践に際して観察や判断の根拠とする。

科目名称	疾病の成り立ちと回復の促進 I (脳神経)	学年学期	単位数	時間数
		第1学年 後期	1	30時間のうち 10時間
担当教員	角南 典生	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 医師 ) <input type="checkbox"/> 無	

#### 【1】 授業概要

疾病により心身機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各病状の特徴や治療法について理解し、看護実践における観察や治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠とする。

疾病の成り立ちと回復の促進 I では脳および神経機能、運動機能、内分泌・代謝機能の障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

#### 【2】 学習目標

1. 脳神経疾患に興味を持っていただき、患者さんと接する際に役立つ。

#### 【3】 第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

#### 【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	頭痛疾患	講義
2	意識レベル 頭部外傷	講義
3	脳血管疾患	講義
4	脳卒中予防	講義
5	脳腫瘍 神経変性疾患	講義
	試験・まとめ	

#### 【5】 評価方法

1. 筆記試験と授業への取り組みを含めた総合評価を行う。

#### 【6】 教科書

系統医学講座 成人看護学7 脳・神経 医学書院 2020年 15版

#### 【7】 参考書

・なし

#### 【8】 受講生へのメッセージ

脳神経疾患に興味をもっていただきたいと思います。